

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第138回

(2022年7～9月期)

令和4年11月

桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。

2. 調査時点 2022年9月1日

3. 調査期間 2022年7～9月期

4. 調査対象企業数 380企業（うち回答企業数132企業）

5. 調査対象業種
 - ①建設業（回答企業数23企業）
建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

 - ②商業・サービス業（回答企業数52企業）
卸売業、小売業、飲食業、サービス業

 - ③製造業
機械金属関連業（回答企業数31企業）
鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数26企業）
撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d e x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で**-18**。前期（-26）比は+8ポイントとなった。また前年同期（-26）比では+8ポイントとなった。

業種別では、**建設業-22**（前期比+21、前年同期比±0）、**商業・サービス業-29**（前期比+11、前年同期比+26）、**機械金属製造業-7**（前期比±0、前年同期比-44）、**繊維製造業-4**（前期比-8、前年同期比+17）となっている。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で**-23**。前期（-38）比は+15ポイント、前年同期（-25）では+2ポイントとなった。

業種別では、**建設業-18**（前期比+34、前年同期比+21）、**商業・サービス業-35**（前期比+19、前年同期比+14）、**機械金属製造業-14**（前期比±0、前年同期比-54）、**繊維製造業-15**（前期比-3、前年同期比+6）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で**-25**。前期（-18）比では-7ポイント、前年同期（-23）比では-2ポイントとなった。

業種別では**建設業-33ポイント**（前期比+2、前年同期比-10）、**商業・サービス業-34ポイント**（前期比-8、前年同期比+5）、**機械金属製造業-9ポイント**（前期比-13、前年同期比-41）、**繊維製造業-14ポイント**（前期比-9、前年同期比+18）となっている。

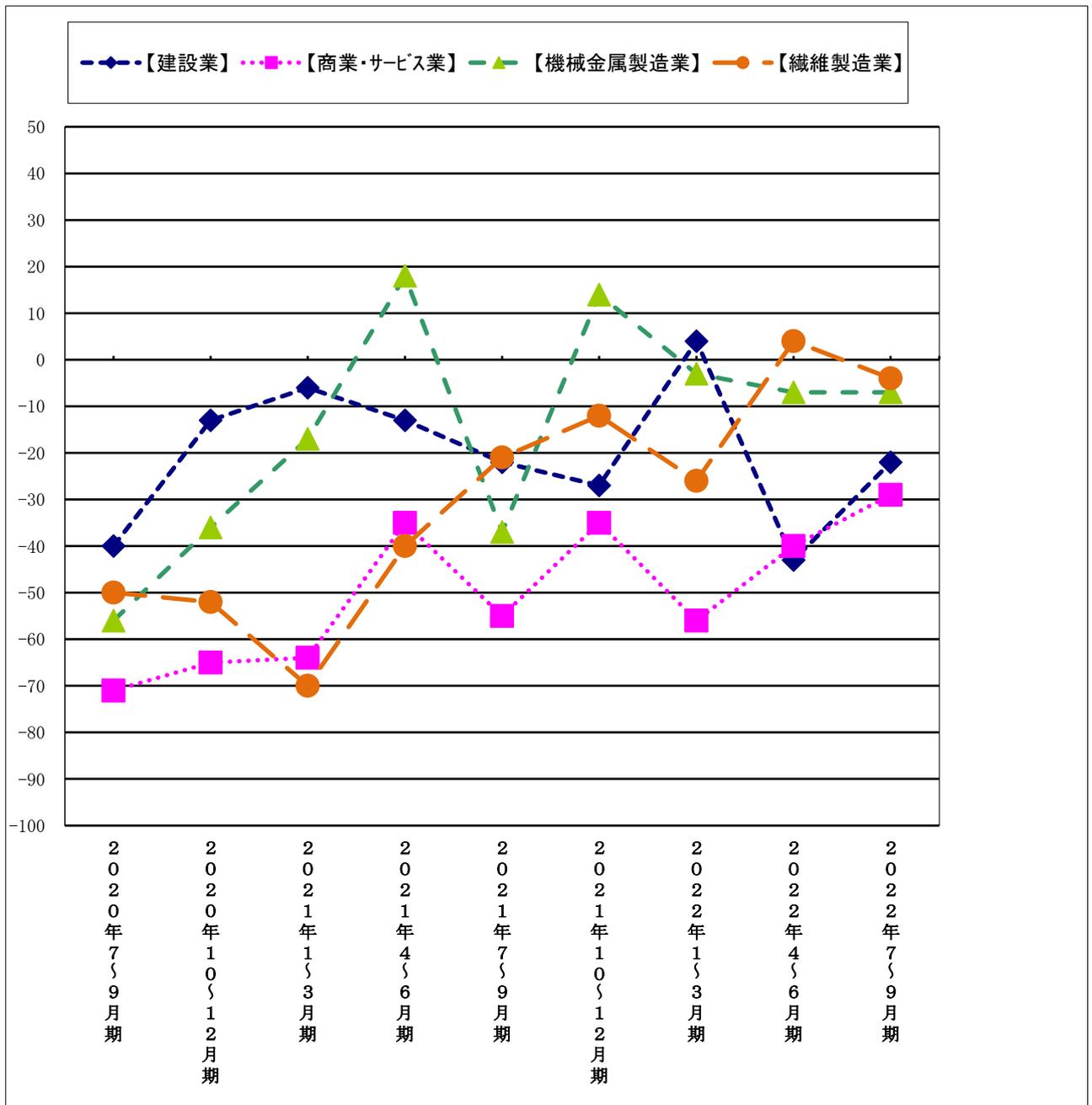
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「材料価格の上昇」（25.0%）「従業員の確保難」（16.1%）、**商業・サービス業**では「材料等仕入単価の上昇」（15.6%）「需要の停滞」（15.6%）、**機械金属製造業**では「原材料価格の上昇」（20.3%）「製品単価の低下・上昇難」（12.7%）、**繊維製造業**では「原材料価格の上昇」（25.0%）「需要の停滞」（23.5%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2020年7～9月期	-40	-71	-56	-50
2020年10～12月期	-13	-65	-36	-52
2021年1～3月期	-6	-64	-17	-70
2021年4～6月期	-13	-35	18	-40
2021年7～9月期	-22	-55	-37	-21
2021年10～12月期	-27	-35	14	-12
2022年1～3月期	4	-56	-3	-26
2022年4～6月期	-43	-40	-7	4
2022年7～9月期	-22	-29	-7	-4

[2020年7～9月期] から [2022年7～9月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-22**。前期比は+21、前年同期比では±0ポイントとなった。
業種別では**建築・大工業[-30]**、**土木業[±0]**、**管工事業[-50]**、**鉄骨・鉄筋業[±0]**、**電気工事業[-25]**、**その他[±0]**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-33**。前期比+2、前年同期比では-10ポイントとなっている。

【商業・サービス業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-29**。前期比は+11、前年同期比では+26ポイントとなった。
業種別では、**卸売業[-100]**、**小売業[-41]**、**飲食業[-25]**、**サービス業では[-15]**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-34**。前期比-8、前年同期比では+5ポイントとなっている。

【機械金属製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-7**。前期比では±0、前年同期比では-44ポイントとなった。
業種別では、**鉄鋼業[-100]**、**非鉄金属業[-100]**、**金属製品業[-17]**、**一般機械器具業[±0]**、**電気機械器具業[±0]**、**輸送用機械器具業[+17]**、**精密機械器具業[±0]**、**プラスチック製造業[+33]**、**その他[-25]**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-9**。前期比-13、前年同期比-41ポイントとなっている。

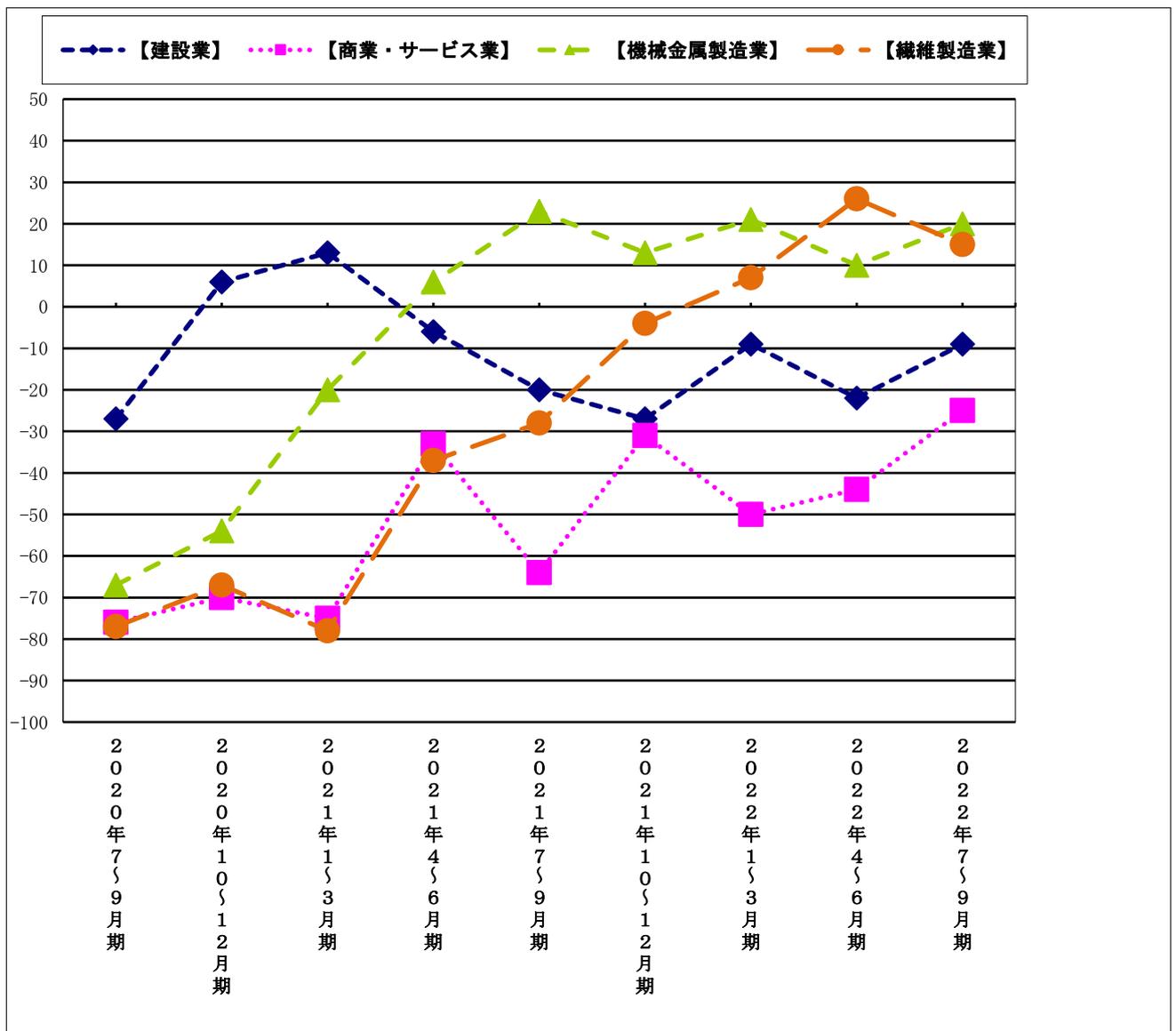
【繊維製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-4**。前期比では-8、前年同期比では+17ポイントとなった。
業種別では、**織物業[+10]**、**染色整理業[+25]**、**ニット・メリヤス業[-50]**、**レース業[-50]**、**縫製業[±0]**、**刺繍業[-20]**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-14**。前期比-9、前年同期比では+18ポイントとなっている。

売上額（完成工事額）DIの推移

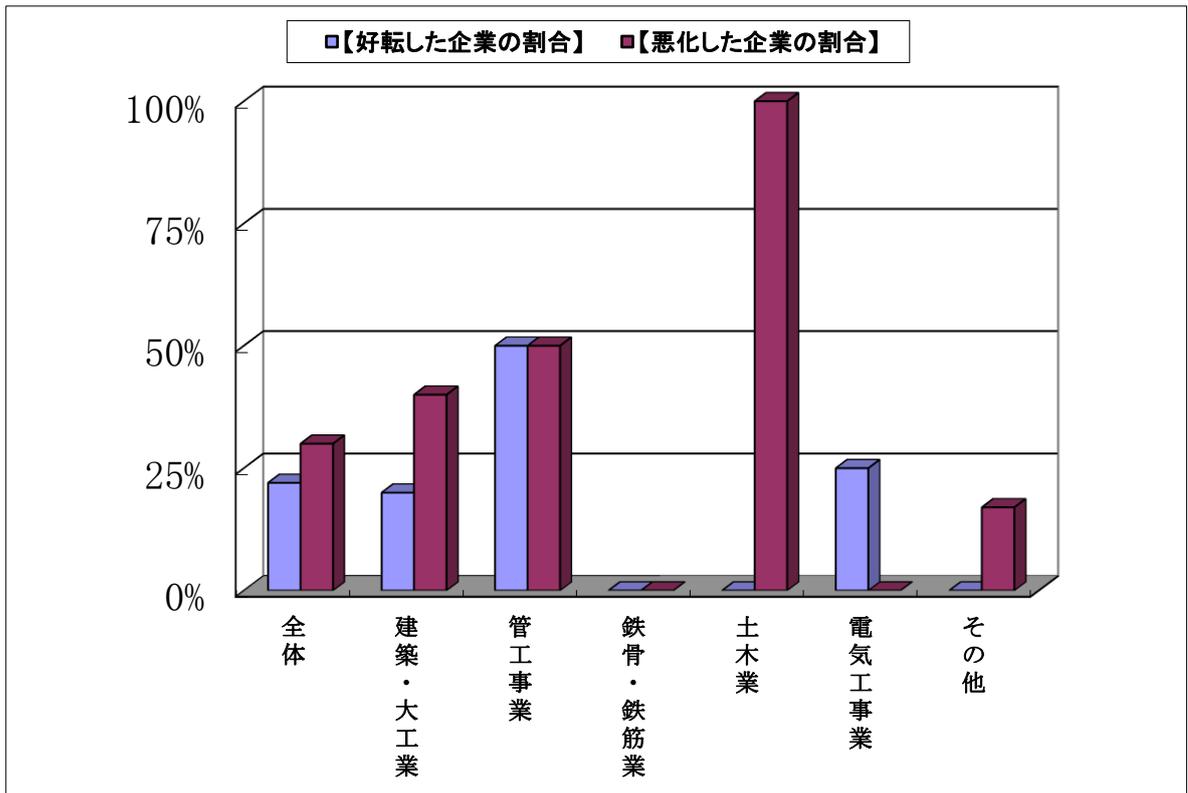
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2020年7～9月期	-27	-76	-67	-77
2020年10～12月期	6	-70	-54	-67
2021年1～3月期	13	-75	-20	-78
2021年4～6月期	-6	-33	6	-37
2021年7～9月期	-20	-64	23	-28
2021年10～12月期	-27	-31	13	-4
2022年1～3月期	-9	-50	21	7
2022年4～6月期	-22	-44	10	26
2022年7～9月期	-9	-25	20	15

[2020年7～9月期] から [2022年7～9月期]

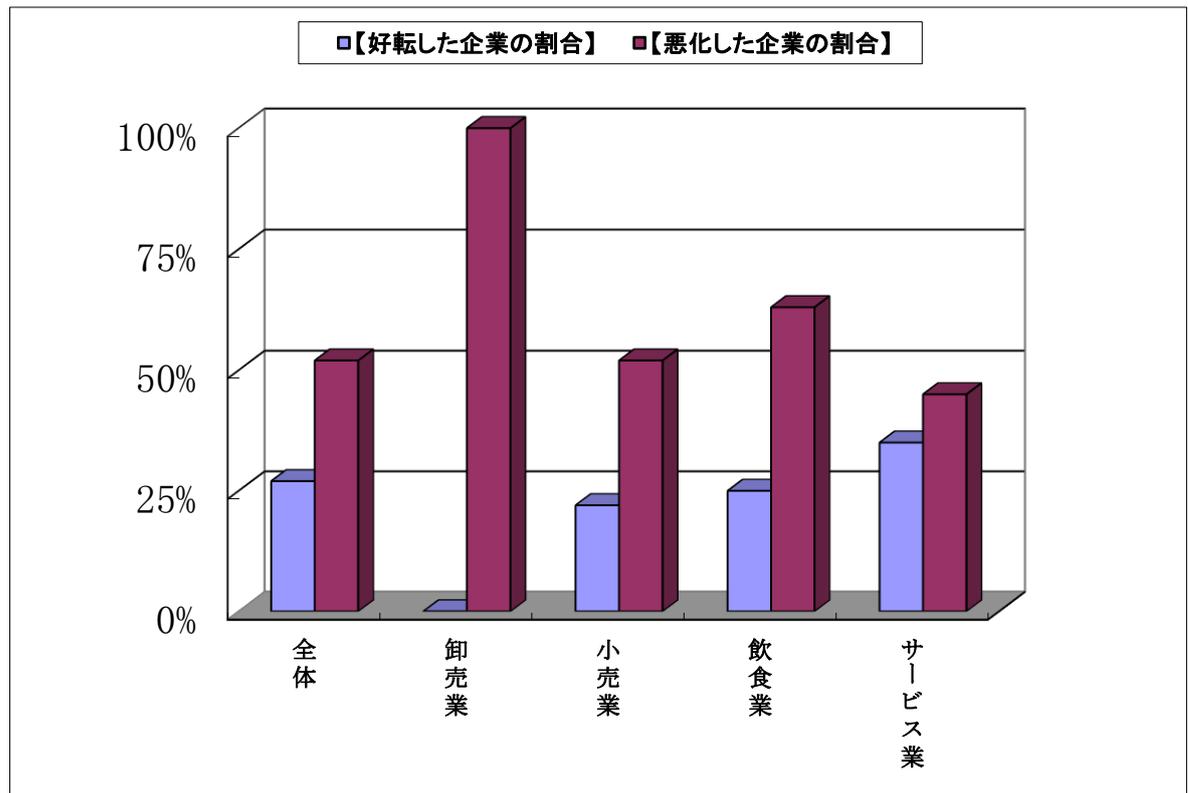


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

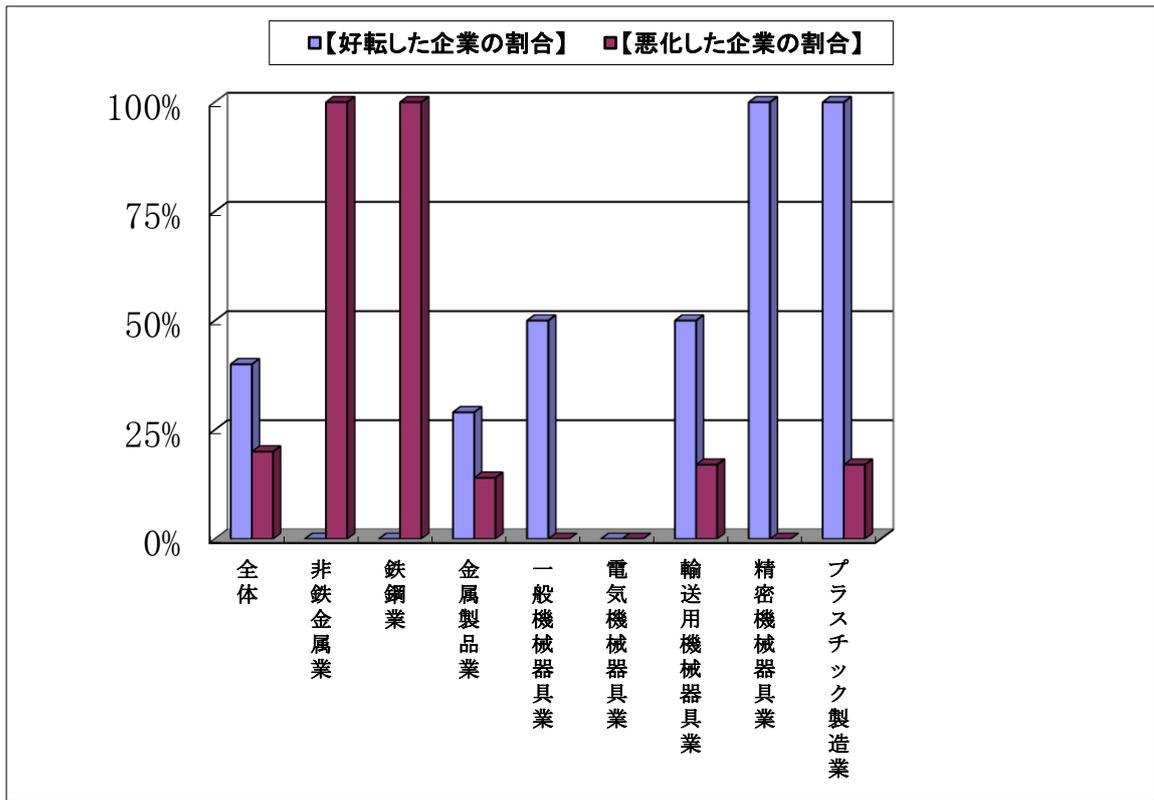
【建設業】



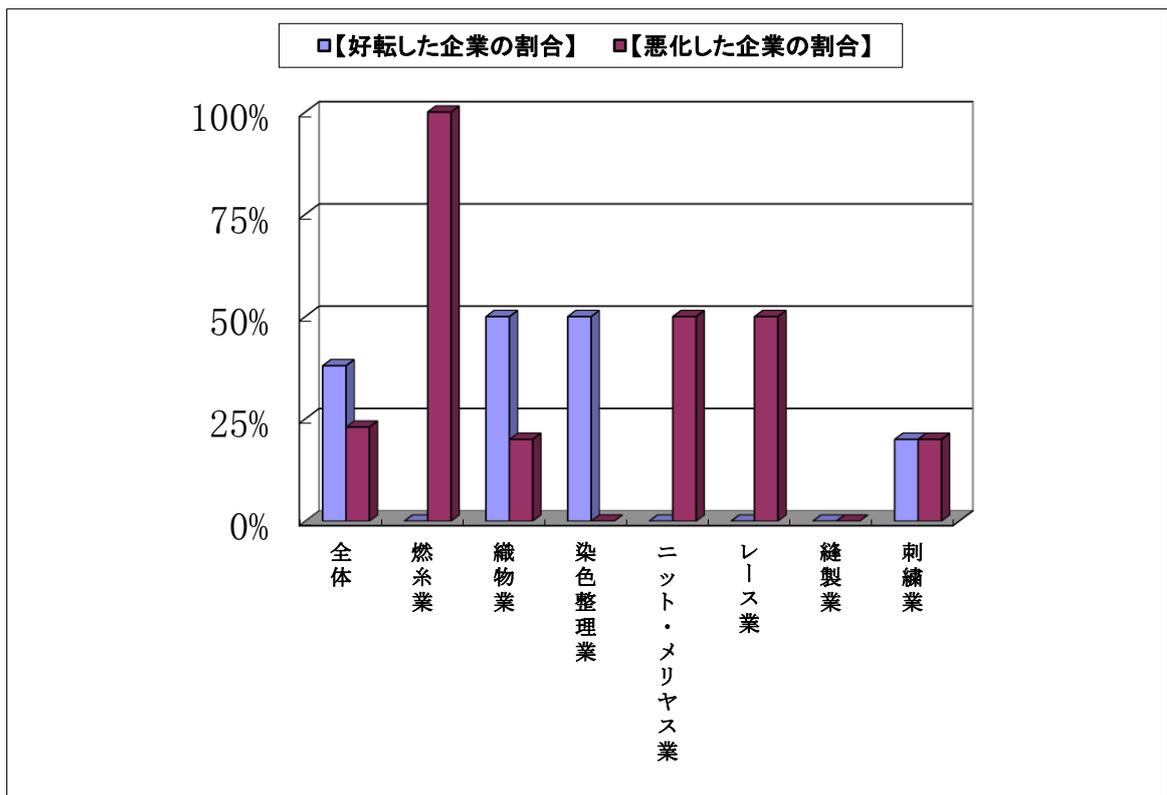
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



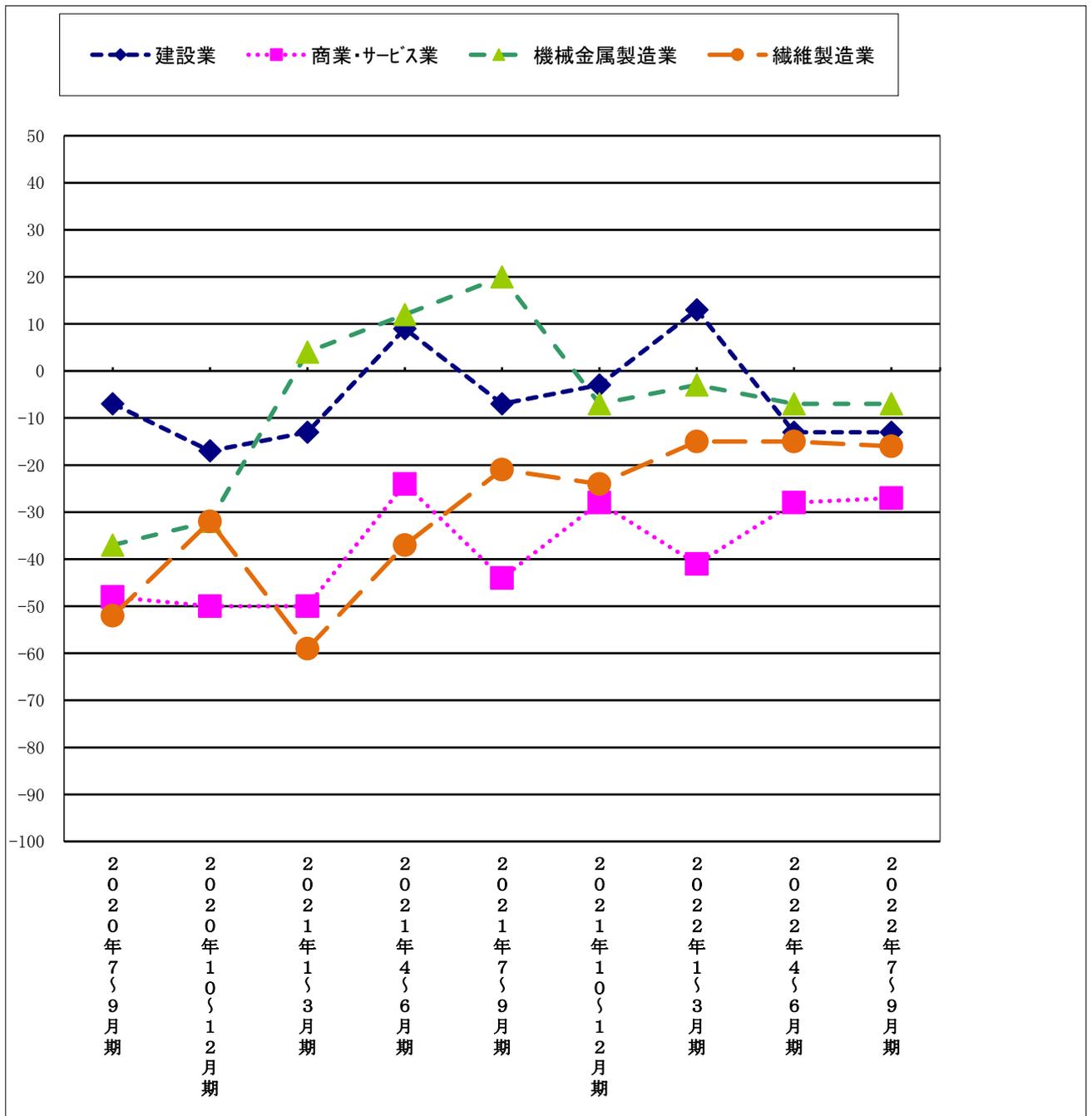
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
2020年7～9月期	-7	-48	-37	-52
2020年10～12月期	-17	-50	-32	-32
2021年1～3月期	-13	-50	4	-59
2021年4～6月期	9	-24	12	-37
2021年7～9月期	-7	-44	20	-21
2021年10～12月期	-3	-28	-7	-24
2022年1～3月期	13	-41	-3	-15
2022年4～6月期	-13	-28	-7	-15
2022年7～9月期	-13	-27	-7	-16

[2020年7～9月期] から [2022年7～9月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)		2位(%)		3位(%)		4位(%)		5位(%)	
建設業	材料価格の上昇 25.0		従業員の確保難 16.1		材料の入手難 14.3		民間需要の停滞 10.7		熟練技術者の確保難 7.1	
前期	1位	26.3	3位	14.0	2位	15.8	4位	10.5	5位	10.5
前年同期	1位	23.9	7位	4.2	5位	7.0	2位	18.3	3位	8.5
商業・サービス業	材料等仕入単価の上昇 15.6		需要の停滞 15.0		消費者ニーズの変化への対応 13.3		人件費の増加 10.4		従業員の確保難 8.9	
前期	1位	18.3	2位	15.0	3位	12.2	7位	5.6	5位	6.7
前年同期	8位	5.1	1位	17.9	2位	12.8	6位	7.7	3位	9.2
機械金属製造業	原材料価格の上昇 20.3		製品単価の低下・上昇難 12.7		原材料費・人件費以外の経費の増加 12.7		従業員の確保難 10.1		生産設備の不足・老朽化 10.1	
前期	1位	20.5	2位	15.9	4位	10.2	3位	11.4	6位	8.0
前年同期	1位	15.2	3位	11.4	11位	2.5	4位	10.1	4位	10.1
繊維工業製造業	原材料価格の上昇 25.0		需要の停滞 23.5		製品ニーズの変化への対応 8.8		原材料費・人件費以外の経費の増加 7.4		生産設備の不足・老朽化 7.4	
前期	1位	27.0	2位	17.6	4位	9.5	5位	6.8	5位	6.8
前年同期	2位	16.0	1位	30.7	4位	8.0	9位	2.7	5位	6.7

事業所からのコメント（直面している問題点など）

〔建設業〕

- ・材料価格高騰による採算悪化、材料入手難による工期の延長、金利の上昇など経営に与える影響が少しずつ大きくなってきつつあります
- ・材料価格の上昇に対していかに価格に転嫁できるかが課題

〔商業・サービス業〕

- ・コロナ第7派の影響がかなり大きなダメージになっている状況。宴会等大口注文が戻らないと厳しい
- ・電気代、ガス代、原材料費の高騰に加え、最低賃金アップによる人件費の増加と経費高に売上確保の施策が追い付かない
- ・商品構成が少しずつ時代のニーズからずれてきている。インターネット時代で人も歩いている。神業ミュージアムが出来て観光の人は増えている。新店舗の飲食業も人が入っている
- ・コロナの第7派の影響が今だに続く中で、一般葬の確保に努めるべく営業展開し、売上の増加、利益の計上に奔走中である
- ・コロナ前の状況に戻らない
- ・SDGs等社会の風は吹いているが物の動きに時間がかかりすぎている
- ・店主高齢化
- ・高額品の売上激減。実質賃金の上昇がみられない現状では買い控えか

〔機械金属関連業〕

- ・感染数が多い中、行動制限がなくなり新たな共存への道を踏み出しましたが、円安が進み原材料・副資材・諸費用の値上げで採算割れになりかねない状況です
- ・原料の入庫遅れが受注残を招いています
- ・原材料単価上昇は客先が対応して頂けるが、電気、ガス、副資材の値上がり分は自主努力で吸収を求められるので採算性悪化
- ・コロナや円安の影響が問題

〔繊維工業〕

- ・売上額が増加となっていますが、まだまだコロナ前には戻りません。原糸、加工費、電力等値上げが大きくなってくるなかで、利益をちゃんと残せるかが課題です